

# 石神中学校だより 6号

発行日：令和3年 6月30日

2021重点目標<課題を持って自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒> 文責：校長 佐藤恭司

新型コロナウイルスによる感染拡大により心配されていた校内行事ですが、これまで計画通りに行うことができています。生徒らの意欲的な取り組みや活動の様子を紹介いたします。

## 不審者侵入防犯教室

6月24日（木）不審者侵入を想定した防犯教室を行いました。平成13年（2001年）6月、大阪教育大学附属池田小学校で発生した無差別殺傷事件で多くの児童が犠牲となりました。この事件を教訓に、本校でも外部からの不審者侵入から身を守るための訓練を実施しています。南相馬警察署の協力を頂きながら、速やかに避難する方法や避難ルートの確認など行いました。生徒の真剣さが伺えました。



## 県立高等学校説明会

6月25日（金）相双域内の県立高等学校の教職員を招き、高等学校説明会を行いました。昨年度から、新たな入試制度になり、さらに来年度からは、県立新地高校と県立相馬東高校が合併され相馬総合高校となるなど、生徒らの関心も高く、意欲的に聞き入る様子が見られました。自分の将来を左右する進路選択です。希望する高校で「何をどのように学びたいのか」をじっくり考えながら、進路選択を行って下さい。



## 薬物乱用防止教室

薬物乱用防止教室は、学校保健計画において位置付け、すべての中学校及び高等学校において年1回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努めることとされています。子どもたちに薬物乱用の怖さを理解させ、決して手を出さない、強い心を持って欲しいと思います。ご家庭でも薬物乱用などを話題にしていただければと思います。（6/29実施）



## 水泳の授業開始！

2年ぶりとなる水泳教室が始まりました。今年度は、学級ごとの授業ということもあり、プール内は、ゆとりある間隔で実施できています。授業では「3密になる活動を避ける」「更衣室等の換気・着替え時のマスク着用」「体調が悪いときは無理をさせない」「授業後は手洗い・うがい・手指の消毒の徹底」を実施し、感染症予防に努めています。（6/28 プール初日：2年生）



## 令和3年全国地域安全運動標語部門県最優秀賞受賞

公益社団法人福島県防犯協会連合会と県暴力追放運動推進センター主催による「令和3年全国地域安全運動ポスター・標語・青パト活動写真コンクール」審査において、本校1年生の西内心春さんが、標語部門で県最優秀賞を受賞しました。(標語応募総数2,519点)

### <最優秀賞作品>

#### 『大丈夫』 そう言うあなたが ターゲット

～作品に込めた思い～

「最近、詐欺のニュースが増えていたので、詐欺が少しでも減ったらいいなという思いを込めて作りました。」(西内心春さん) ※後日、南相馬警察署長より表彰が予定されています。

### 子どもたちに伝えたい名言とことわざ

#### 【桃栗三年柿八年】 (ももくりさんねん かきはちねん)

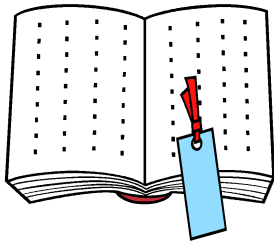


すぐには実はなりません、いつかまた種は大きな実をつけます。種を蒔かなければ実をつけることはありません。芽が出て、花が咲き、実がなるまでの間がとて長い桃や栗は、その意味でも、私たちの生活の中でことわざとして使われています。毎日の積み重ねが、いつか大きな成果を出すのです。勉強も部活動も努力を続けて、毎日頑張りましょう。きっと大きな成果として表れることでしょう。

～ねがい～

#### 「学校では教えない本との出会い」

私が大学に入った時のことです。40年前の当時、美術系大学では、同学年の中に年上つまり浪人生や留年生はかなりの割合で在籍していました。年上の人達との会話について行けず、悩んだことを思い出します。全国から来ていた年上の“彼ら彼女ら”は、美術予備校やアルバイトなどの人生経験が豊富で、会話の内容に事欠かず、何を話しても面白い、そして新たな発想や解決方法なども、途切れることなく話題にしていたことが、カルチャーショックでした。私は、聞いているだけだったので。どうしたら、“彼ら彼女ら”のように人を引きつけ、楽しく話せるのかを毎日考えていました。あるとき、図書館で一冊の本に出会います。「雑学おもしろ百科(角川書房:小松左京監修)全12冊」。学校では教えない、身近な生活の中での疑問やあたりまえの知識が、わかりやすく標記されていて、寝る間も惜しんで読んだことを思い出します。人は、知らないことを知るとつい誰かに話したくなるものです。私は、アルバイトも重ね、経験を積むことで、少しずつ、年上の“彼ら彼女ら”とも話せるようになっていきました。その後、先輩になった私は、下級生にどのように写っていたのでしょうか。今はスマホの時代で、検索すると何でも調べることが出来ます。身近に好きな一冊の本を置いて、紙をめくりながら、繰り返し読書をするのもいいものですよ。私は、何かで立ち止まったとき、図書室や本屋さんに行くと、解決のヒントを見つけることが出来るようになりました。



その時の本は、今でも大切に持っています。「雑学おもしろ百科」から、一つ紹介します。

#### 「行司の“ハッケヨイ・ノコッタ”はどんな意味」

大相撲を見ていると、行司が力士の周りを回りながら、大声を張り上げて「ハッケヨイ・ノコッタ」と言っていますが、あれにはどんな意味があるのでしょうか。よく見ていると行司がこの声を発するにもタイミングがあります。力士同士がなんとなく技をかけるのをためらっている時とか、元気がない場合が「ハッケヨイ」です。「ハッキョイ」は漢字で書くと“発気揚揚”(はっけ ようよう)。発気は「気合いを入れる」。揚揚は、得意な様子、誇らしげな様子という意味です。つまり、「もっとやれ、もっとやれ」という元気づけの言葉なのです。一方、「ノコッタ」は、投げるとか押してもまだ技が決まっていな、土俵の外に出ていないときに多く使われます。つまり、「まだ勝負はついていませんよ。頑張りなさい」という励ましの意味なのです。



「雑学おもしろ百科(角川書房:小松左京監修)第一巻より」

